

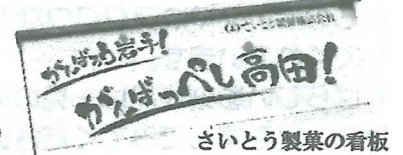
毎週 水曜発行
(8月から週1回発行となりました)

復興ニュース

40号
2011年
8月31日

発行：気仙市民復興連絡会
大船渡市末崎町字石浜 34-1
<http://kesen-chiku.ecom-plat.jp/>
Twitter @KesenShiminFR
<https://www.facebook.com/kesenfukko>

少しずつだけど活気もどってきたぞ！陸前高田。
一部の大船渡市民が、ひそかに“仮設銀座”と呼んでいる町。



最近、一部の大船渡市民のあいだで“まるで仮設銀座だなぁ！”と呼ばれている町があります。

それは、陸前高田市竹駒町、そして同市の鳴石です。

壊滅状態だった竹駒町には現在までに多くの仮設店舗がオープンしています。ローソン高田竹駒町店は津波で全壊しましたが同じ場所で営業再開。通りの向かい側に、新鮮な野菜などを扱う“とれたてランド”がオープンすると、近隣に次々とマイヤ、サイトウ製菓、KUMON、クリーニング・ママ号、au ショップなどがプレハブ店舗でオープンし、北日本銀行、岩手銀行、東北銀行のATMも併設。そして今月中旬にはファミリーマート高田竹駒店がオープンしたばかり。

そのほかにも徒歩圏内に地元野菜を扱う“やさいやさん”など数々の仮設店舗が軒を並べています。

復興支援の車が通るだけの道沿いに多くの店舗が立ち並び、買い物客などで人の流れも少しずつですが戻ってきているのです。一方、鳴石でもマイヤ、伊東文具店、吉田歯科医院、鶴浦医院、森の前薬局がプレハブ店舗で営業をはじめています。食料品だけでなく歯医者さんやお医者さん、薬局が近くにあるのはとても頼もしいですね。

取材をする中で、店舗が被害を受けて今後営業再開をする・しないで悩まれているたくさんの事業主の方ともお話しさせていただく機会がありました。店舗だけでなく自宅も流され仮設住宅で暮らす方々のお話も聞かせていただく機会もありました。

“もう、お店やめてしまおうと思う。…でもやっぱり、
…本音はもう一度、うちも営業再開させたいって思っているんだよね…”

いつも店に足を運んでくれたお客さんから『またお店やってよ』などと言われるたびに、

“やめてしまおう”と決めていたはずの気持ちが揺らぎ、悩んでいる方がほとんどでした。けれど開業には多額の費用が必要だったり、食べ物を出す店は“同じ味が出せるか不安…”という声も。

“多額の借金してまでやるべきか？”自問自答を繰り返している方も少なくないでしょう。

仮設店舗を新しく目にする度、うらやましい気持ちと妬ましい気持ちが錯綜しているのも事実でしょう。どうか、ゆっくり時間をかけて答えを見つけてください。お客さんのためにも、自分のためにも。

まずは“仮設銀座”が先導をして、みなさんを引っ張って行ってくれることに期待！

店が1軒増えれば、お客さんがきてお金が流れ、町が動き出す。これも“はじめの一歩”、ですね！



住田町の仮設住宅は、温もりある動物たちが迎えてくれるようになりました。

住田町には下有住地区や世田米地区に3箇所、全90世帯の仮設住宅があります。

8月上旬、其々の入口に動物たちがやってきました。高さ2メートルを超える木彫刻の動物たちです。これは地元の職人さんが製作し寄贈したもので、クマやフクロウなどが住宅の案内をしてくれています。

素晴らしい彫刻作品は一見の価値ありです！是非、足を運んでみて下さいね。



火石団地の入口



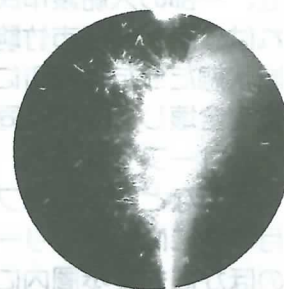
本町団地の入口



中上団地の入口

大船渡市・地ノ森仮設住宅では、自治会主催で花火大会が開催されましたよ。

8月24日、地ノ森仮設住宅自治会による花火大会が、近くの旧マイヤ中央店跡地で行われました。この花火大会は8/13に開催した納涼会で行う予定でしたが、時間の関係から延期されたもの。花火を寄贈した同仮設住宅で暮らす佐々木二郎さん(89才)は『自分は下駄箱づくりや理髪などの特技が無いので、子どもたちに喜んで頂く花火を贈って、仮設住宅での暮らしを一生懸命にお世話している清水会長を応援しようと思った』と語ってくれました。



『打上げ花火はちょっと怖かったけど、みんなで花火たのしかった^o^!』

そう話してくれたのは、花火大会に参加していた新沼だい一君(5才)。将来、自分の子どもと花火をするとき、この日の花火の思い出を振り返ってくれたら素敵ですね。仮設住宅の暮らしといえども、日々を楽しみ思い出に染めていくと未来も明るくなってくる気がしますね。



この地ノ森仮設住宅の自治会は入居1か月後に発足。

当初は4名体制でしたが後に9名体制になり活気づいてきました。大船渡市内で最初にできた仮設住宅ということもあり住宅の欠陥による住みづらさ、そして病院の跡地ということもあり“お化けが出る”などと周りから噂され住民の間では“ここの仮設に来なければよかった…”という声すら聞こえるようになっていましたが、“ここの仮設に来てよかった”と思ってもらいたい、“楽しい2年間にしてもらいたい”という自治会のみなさんの強い想いや工夫や努力により、ここまで歩んできました。



日々奔走している清水正悦さん

自治会会長の清水正悦さんは、こう話されています。

『イベントや行事などは情報を周りから得ながら自分なりに考えてやっています。自己満足ではなく他の仮設住宅との競争するでもなく、他で何かが催されれば刺激を受けるし、地ノ森仮設で催したことが他の刺激になってお互いに刺激になればいいと思っています。今日を明日へ繋げ、生活意欲になればいいです。』と。その通り！相乗効果でみんなで前へ…少しずつでも、ね。

自治会がまだない仮設住宅はたくさんあります。行政へ何か意見する場合にも、個人レベルより自治会があったほうが有効的だとも云います。自治会をつくって、より良い2年間にしてみませんか。

“家も財産も失ったけれど、障がいのある方々のために活動をはじめました”

写真は、大船渡市赤崎町で暮らしていた千葉ご夫妻。津波ですべてを失い、今は仮設住宅で暮らしています。そんなおふたりが今月中旬に障がいのある方や介助が必要な方々のための活動をスタートしています。これはNPO 夢・風基金という阪神大震災を契機に生まれた被災地障がい支援のための基金で、通院・通学・御買物などの送迎や外出のお手伝いや見守りなどをすべて無料で行う活動。以前は、“心をつなぐお弁当”で高齢者への配食サービスをしていたおふたり。障がい者支援のプロではないおふたりの“心がつながる障がい者支援”への挑戦をあたかく応援していただければと思います。『相談などもお気軽にお電話ください』→【センター1・2・3】TEL 27-6203



笑顔が素敵な千葉ご夫妻

“みんなでタネっこをまくべあ！” 見事に咲いたヒマワリ

陸前高田市矢作町

6月4日・5日の両日、陸前高田市矢作町の浸水した農地に、塩害対策として植えたヒマワリが今、見事に咲いています。このヒマワリは「みんなでタネっこをまくべあ」として、同町住民や遠方から来たボランティアさん達が参加し植えたもので、8月20日には下矢作保育園児もヒマワリの花を見に来るなど、その他通行人なども含め多く訪れていました。津波で浸水した土でも花の命は芽生え育ちニコニコと太陽に向かって元気に咲いています。植物はけなげでたくましい。それは人も、同じ。まずは小さな芽を出す一歩からすべてははじまります。一歩が難しければ半歩でもいいのですよね。少しずつでも葉をつけていけばいつかは必ず実を結ぶのです。それを春の桜や蒲公英が、そして夏になり、ヒマワリが教えてくれています。間もなくコスモスたちもそれを教えてくれることでしょう。



倒壊した自宅から外した欄間を、新居に移築。



本紙第30号でも紹介した大船渡市赤崎町で第一号の新築住居となる千葉徳雄さん(76歳)の平屋住宅。工事は順調に進み、明日(9/1)いよいよ仏具など運び込まれ新生活をスタートされます。

周囲からは『あの人はお金があるから…』など冷たい声を浴びることもありましたが、これは“いつかまた津波がくる”と想定して5年前に国から土地を購入していたことと贅沢をせず質素に暮らしてきた積み重ねの賜物なのです。多くの人の考え方を変えたと言われている。

今回の大震災。物欲がなくなった、贅沢する気にならなくなったなど、そんな方も多いのではないのでしょうか。千葉さんの生き方は、先を見越して万が一に備える大切さを教えてくれているような気がします。

移築した欄間は見事なものでした。使えるものは使う、単純なことなのにこの贅沢して新調しがちですが見直してみるいい機会かもしれないですね…。心筋梗塞で生死を彷徨った経験もある千葉さんが80歳目前に家を建てること、それは皆に一步踏み出して欲しいという意味が込められているのです。復興には地域の皆の力が必要だ、と。もうひとつ。避難所閉鎖以降、倒壊した電気のない蔵の中で数十日間生活していた千葉さんが目にし疑問に感じたのは行政が“避難者ゼロ”と発表したことだったそうです…。この問題は前々からありますが、自宅避難者をカウントしない(できない?)行政では、本当になんともならないものなのではないのでしょうか。疑問が残ります。



7月上旬。
まだ柱だけの状態でした。

これからのイベント情報

▼ じぶんたちで作る結婚指輪 ▼



予定していた結婚式の延期やキャンセル、結婚指輪購入を断念したり、大切な指輪を失くされた方は、相当数が予測されます。この逆境を乗り越えてゆこうとするふたりが、今改めてお互いの存在を確かめ合い、未来を誓い合い、これからの復興の原動力となる結婚指輪を手にしてもらいたいという想いから“おふたり参加型”の結婚指輪づくりのイベントが下記日程で開催されます。

【日時】9月3日(土)・4日(日) 10:00~18:00(2時間ずつの開催〈製作所用時間2時間〉)

【場所】竹駒地区コミュニティセンター(陸前高田市竹駒町字館44 Tel54-2943)

【参加対象者】結婚を予定されているカップルで結婚指輪を失くされたり、購入を断念された方。または、結婚されている御夫婦。

【参加費用】無料 ※事前予約が必要です。参加希望日時を下記までお申し出ください。

【参加申込先】スタジオSORA Tel03-5772-8011(受付時間10:00~19:00/水曜定休)

▼ 大窪山森林公園の散策 ▼

三陸町吉浜川源流のせせらぎやブナ、ミズナラ、ヤマザクラなどのすばらしさ、大切さを感じ合いながら、大窪山森林公園への親しみや愛着を深める契機するとともに、五葉山県立自然公園の豊かな自然を後世へ残して一人ひとりの思いを育む機会とします。

【日時】9月22日(木) 9:00~12:00

【集合場所】大窪山森林公園・もりの学び舎(大船渡市三陸町吉浜字平根10-3)

【材料費】100円(葉っぱを透明なビニールフィルムで包むラミネート加工の材料代です)

【持ち物】昼食、飲み物、おやつ、雨具、ウォーキングできる服装

【参加申込先】もりの学び舎(管理人:氷野 巧) Tel44-3655 ※申込締切…9月19日

【主催】大船渡農林振興センター・気仙地方森林組合・五葉山自然倶楽部



— 編集後記、徒然 —

気仙市民復興連絡会 広報担当: やまぐちなみ

**“さよなら”は別れのコードバシではなくて、
再び会うまでの“遠い約束”。**

みなさん、こんにちは。この復興ニュース第17号の発行以降、今日まで取材・編集・配布をひとりで担当し走り続けてきました。第36号でもご挨拶させていただきましたが、この第40号を以て、私は担当から外れることになりました。非常に無念ではありますが、ボランティアで県外の私が続けるよりも、地域の失業者の雇用を生むためにも私の役目は終わったようです。今後は地元気仙地域住民が復興ニュースを引き継ぎます。より良い記事づくりに努めていくことを期待しています。

まったくの無償ボランティアのなかには、“貯金がなくなったら帰る”という人が少なくないのが実情です。私も、しかり。気持ちはあるけれども、生活が継続できなければ、地元に戻り仕事をして貯金をし、また戻ってくるしかないのですよね。助成金制度などありますが、その多くは個人ボランティアではなく団体に向けたものが殆どで、これも改善しなければならない問題だと思います。

私は地域住民多くの皆様に支えられ今日までの4か月、活動を続けてくることができました。要求したわけではなく、泊るところがないときは自宅に招いて布団で眠らせていただいたり、『普段、コンビニばかりでしょう?』と手料理を御馳走してくださったり、見知らぬ方がとれたての銀鮭をくださったり、避難所では自分の分を削ってまでも配給のバナナや牛乳をくだったり…。みなさん本当に優しい方ばかりで、時に折れそうになった心が支えられたこともありました。

同じ想いをしたボランティアさんは他にも大勢いると思います。ボランティアの多くは地元住民の方々に支えられて活動できています。後方支援のそのまた後方支援なのです。そして誰より頑張っているのは地域住民のみなさんだということを外から来た人間は皆、肌で感じて判っていますよ。

私は、いったん地元名古屋に帰りますが、優しくてあたたかい人がたくさんいて、そして海と山が共存する気仙が私は大好きです。また、必ず戻ります。これまでお世話になりました多くの皆さんへ…、本当に、ありがとうございました。“遠い約束”をすべての人へ。

連絡会からのお知らせ

気仙市民復興連絡会では気仙地域における活動団体等の情報収集・発信(助成金情報提供等)を行っています。情報を発信したい等、相談等の窓口としてお気軽にご利用下さい。

広報活動のお手伝い(取材)も行かせていただきます。お気軽に広報担当までお尋ねください。

◆ 本紙(復興ニュース)の入手方法についてのご案内 ◆

発行は毎週水曜日です。配布(掲示)場所は下記のとおりです。(8/31 現在)

御協力いただいている店舗さま・関係者各位さま、いつもありがとうございます。

【復興ニュース配布場所】(順不同・敬称略)

(陸前高田市) 陸前高田市役所(1階ロビー)／獺沢団地仮設住宅(モビリア①)全60戸

マイヤ米崎出張販売所・相野果樹園跡(レジ前)

(大船渡市) 大船渡市役所(受付)から左に進んだ左手棚／カメラアホール[大船渡市盛町](1階ホール)
大船渡地区合同庁舎(1階ロビー、1階売店)／大船渡社会福祉協議会(ボランティアセンター)
サン・リア(1階昇りエスカレーター横の棚)／リアスホール[大船渡市](警察官詰め所横の棚)
薬王堂大船渡盛店(レジ裏お知らせコーナー)／薬王堂大船渡店(レジ横し字カウンター端)
マイヤ大船渡インター店(レジ後方ガラス窓沿いのカウンター)／YSセンター(情報コーナー)
福祉の里(情報コーナー1階ロビー)／喫茶・ロリアン[盛町]／ダイマル店頭[盛町商店街]
佐々木荒物店レジ横[大船渡市盛町商店街]／千田薬局[三陸町綾里]

地ノ森団地仮設住宅 全72戸／鳥沢団地仮設住宅(蛸ノ浦小学校) 全47戸／

黒土田団地仮設住宅(綾里中学校) 全90戸／永沢仮設住宅(大船渡中学校) 全137戸

(住田町) 住田町役場／住田町仮設住宅 [本町団地全17戸／中上団地全63戸／火石団地全13戸]

住田町ボランティアセンター(大股地区公民館)

※上記一覧にない一部仮設住宅へも臨時投函させていただくことがあります。

[復興ニュース]第40号 2011.8.31.

発行 : 気仙市民復興連絡会

Tel&Fax 0192-47-3271

または広報担当携帯/090-5456-9417(山口<奈>)

kesenshimin.f.r@gmail.com <http://kesen-chiku.ecom-plat.jp>

【印刷ご協力】住田町役場 …ありがとうございます！

